

八尾・よろず考古通信



八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌 年 2 回発行

平成 24 年度の主な発掘成果から

平成 24 年度に市域で実施した埋蔵文化財発掘調査では多くの成果がありました。

市域南東部に位置する恩智遺跡では、弥生時代中期後半(前 1 C)の居住域を構成した遺構が見つかりました。

中央部の東郷遺跡では古墳時代前期前半(4 C 前半)の竪穴住居を主体とする居住域の一部が、また中田遺跡では、古墳時代前期後半(4 C 後半)の埋没古墳が見つかりました。

西部の久宝寺遺跡では、古墳時代後期(6 C)

の大型建物群が見つかりました。本遺跡付近を本拠地とした物部氏の居館跡を推定するうえで重要な発見と言えます。そのほか、中河内地域最古の古代寺院である渋川廃寺からは、法隆寺の西院伽藍で使用された軒丸瓦(飛鳥時代末期)が見つかりました。

平成24年度 の主な 発掘調査地点



弥生時代中期の拠点集落を掘る！

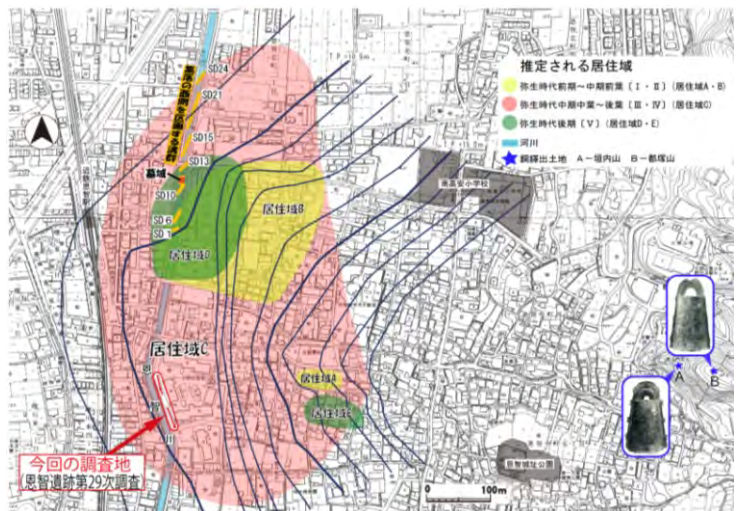
恩智遺跡<第 29 次調査>(恩智中町三丁目)

恩智遺跡の中西部で発掘調査を行いました。恩智遺跡は、古くから縄文時代以降の遺跡として認識されていた遺跡で、特に弥生時代には集落規模が拡大し、地域の中心的な役割を果たした大規模な集落であったことが推定されています。

今回の調査では、弥生時代中期後半(1 C 前半)を中心とした遺構・遺物が多数発見されました。調査地点一帯では、これまでの調査でも居住域に関連した遺構や大量の土器・石器類が発見されており、この地一帯が弥生時代中期後半(1 C 前半)の恩智遺跡の居住域の中心地であったことが推定されます。



弥生時代中期後半の土器が出土した土坑



恩智遺跡の弥生時代の集落の広がりと同銅出土地

目次

- ◆平成 24 年度の主な発掘成果から(1～3)
- ◆考古学よろずコラム 手焙り形土器の絵画に見る邪馬台国時代の八尾の原風景(4)
- ◆イベント情報/編集後記(4)

やまたいこくじだい 邪馬台国時代のムラ跡を発見！

東郷遺跡<第78次調査>(桜ヶ丘一丁目)

東郷遺跡は、河内平野南部の長瀬川と玉串川に挟まれた低位沖積地に位置する弥生時代中期後半(前1C後半)～中世の複合遺跡です。これまでの調査で、遺跡範囲のほぼ中央部付近を南北方向に流れる弥生時代前期～後期前半(前3～1C後半)の河川が見つっています。東郷分流路と名付けられたこの河川は、川幅が約150mを測る大規模な河川でしたが徐々に川幅を狭め、弥生時代後期前半(1C後半)には機能を停止しています。

東郷遺跡の邪馬台国時代の集落は、この河川により形成された自然堤防上に居住域が設けられ、河川跡のやや低い部分には生産域である水田や墓域が設けられています。特に、古墳時代初頭～前期前半(3C)にかけては、集落域の拡大傾向に符合して、他地域との交流が推定される外来系土器の増加がみられます。このことから、東郷遺跡は邪馬台国時代において中河内地域の中心的な役割を果たした遺跡の一つと考えられます。



古墳時代前期前半(4C前)のムラ跡



古墳時代前期前半(4C前)の竪穴住居

もののべ きょかん 物部本家の居館建物群を発見か！？

久宝寺遺跡<第82次調査>(南久宝寺三丁目)

調査では、古墳時代後期～飛鳥時代(6～7C)、平安時代末～鎌倉時代(13C後半)の遺構・遺物が見つかりました。なかでも、古墳時代後期～飛鳥時代の遺構は、掘立柱建物6棟・土坑7基・溝8条・小穴158個などで、調査地の西側で行われた第68次調査を含めて、古墳時代後期(6C)を中心とした建物群が集中しています。

なお、当地一帯は、古墳時代中期～後期(5～6C)に当時の政治の中心的な役割を果たした、物部氏の本拠地と推定されるため、これらの建物群が物部氏の居館を構成したものであった可能性が考えられます。



古墳時代後期(6C)の大型建物が検出されたようす
[左-北区・右-南区]

久宝寺遺跡は物部本家の本拠地か？

本遺跡一帯は、『日本書紀』に記された地名等から、物部尾輿・守屋を輩出した物部氏の本拠地と考えられます。第68・82次の調査では、建物の主軸を同じくする古墳時代後期中葉～後半(6C中～後)の大型掘立柱建物群で構成される居館跡が発見されています。一方、古墳時代中期においては、「久宝寺分流路」に設置された堰や護岸施設に関わる大規模な治水工事の跡が南部で認められています。以上から、この地域が古墳時代中期～後期を通じて、大和朝廷で中心的な役割を果たした物部氏一族の居住地であった可能性が高いものと考えられます。

まいほつ 古墳時代前期末の埋没古墳を新たに発見！

中田遺跡<第55次調査>(八尾木北六丁目)

中田遺跡の中南部で発掘調査を行いました。その結果、古墳時代初頭前半(3C)、古墳時代前期末(4C後半)の遺構・遺物が見つかりました。

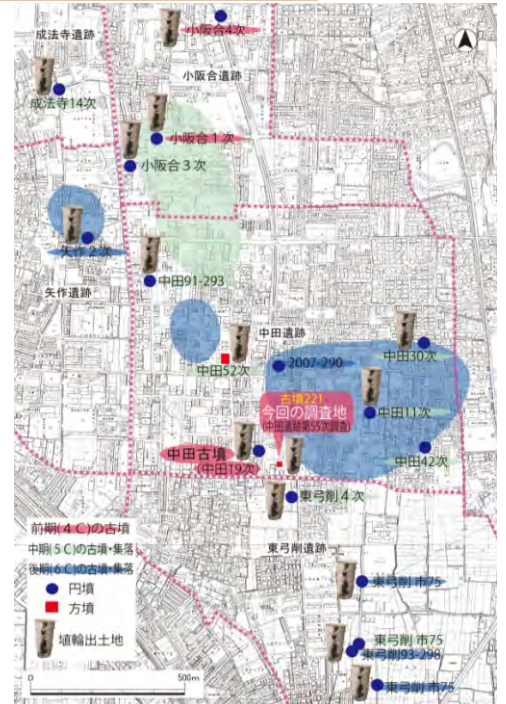
古墳時代初頭前半では、土坑・小穴のほか、土器棺墓1基(土器棺墓231)が見つかりました。古墳時代前期末では、埴輪を伴う古墳1基(古墳221)が見つかりました。

隣接する第19次調査では、豊富な埴輪類が出土した中田古墳

(円墳-4C後半)が発見されており、今回発見された古墳を含めて、古墳群を形成していた可能性が高くなりました。



古墳〔方墳〕221(4C後半)検出状況
* 溝部分が古墳の周溝



中田遺跡周辺の埋没古墳と埴輪出土地点

しぶかわはいじ ほうりゅうじ のきまがわら 渋川廃寺で法隆寺式軒丸瓦を新たに発見！

渋川廃寺<2012-464調査>(渋川町五丁目)

渋川廃寺推定地の北西部で発掘調査を行いました。その結果、平安時代前期の遺構や遺物包含層が見つかりました。遺物包含層から、蓮華文軒丸瓦や凸面に綾杉文叩きを持つ平瓦が9~10世紀の灰釉陶器とともに出土しました。これまでの調査で、渋川廃寺は飛鳥時代前期(7C前)に建立され、平安時代に廃絶したことが推定され、今回の調査でもそれを裏付ける結果となりました。また新たに発見された軒丸瓦(7C後)は、法隆寺西院伽藍創建時に使用された瓦と同じであることがわかりました。



複弁八弁蓮華文軒丸瓦(7C後半)

八尾城推定地内で中世の村跡を発見！

東郷遺跡<第75次調査>(本町七丁目)

東郷遺跡の西部で発掘調査を行いました。その結果、平安時代後期~室町時代後期(12~16C)の長期間におよぶ居住域に関連した遺構・遺物が数多く見つかりました。

調査地一帯は、室町時代初頭の延元元年(1336)に修築され、戦国時代の天正十一年(1583)に廃城となった八尾城の推定位置にあたります。したがって、八尾城構築以前や八尾城の存続時期の様相を考えるうえで重要な地点の調査と言えます。



平安時代後期から室町時代の村の跡

手焙り形土器の絵画に見る邪馬台国時代の八尾の原風景 坪田真一〈公益財団法人八尾市文化財調査研究会〉

鹿と船が描かれた手焙り形土器(市指定文化財 小阪合遺跡第42次)

古墳時代初頭前半(3C 前)の溝(SD401)から出土した。ほぼ完形品で、分量は高さ 17.2 cm・最大径 15.7 cm・底径約 6.5 cmを測る。形態の特徴は、鉢部は平底で丸味を持つ。覆部は鉢口縁部の全周にわたって積み上げられ、不整形で端部を外側に外反して開く開口部を持つ。器面調整は、外面全体にナデを施すが、覆部前半部にハケ、後半分と底部下半分に平行タタキが残る。

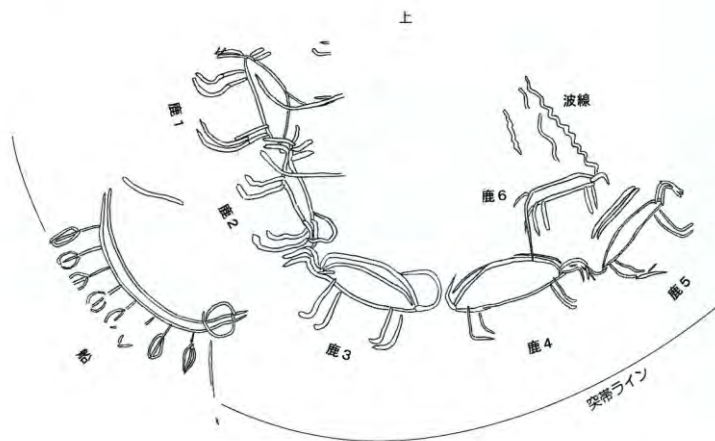
覆部外面全体に線刻により船 1 隻・鹿 6 頭のほか、記号文・波線文が描かれている。船は 2 本の弧線で船体を描き、両端が跳ね上がる準構造

船と推定され、8 本の櫂(オール)が描かれている。船体先の一方に描かれている丸印の意味は不明である。覆部の下端に描かれている

ことから、底部と覆部とを区画する突帯を水面に見立てていると思われる。鹿(鹿 1~6)の配置は、5 頭(鹿 1~5)がやや斜め方向に 1 列になって覆部の端から端まで描かれている。背面から見て中心から左には左向きの 3 頭(鹿 1~3)が連なり、右には右向きの 2 頭(鹿 4・5)とその上にやや小さい 1 頭(鹿 6)を描く。鹿 1~3 に角が描かれていることから牡鹿で、鹿 4・5 は牝鹿と推定される。記号文としては、覆部の頂点部から左よりに長さの異なる 4 本の弧線、また右よりに 3 本の縦方向の波線を描く。出土地点は当時の主要河川であった小阪合分流路の右岸にあたり、集落からみた当時の風景が描かれたものと推定される。



手焙り形土器(小阪合遺跡第 42 次)
古墳時代初頭前半-庄内式古相(3 世紀前半)



手焙り形土器に描かれた船や鹿など

編集後記

2013 夏、「荒ぶる地球」は気象用語に新たな形容詞を付け、人類に警告を発した。「最高気温の更新」「これまでに経験したことのない大雨」「特別警報」「頻発する竜巻」。確かに、近年の気候は異常である。しかし、考古学を生業とする我々にとって、「これまでに経験したことのない」と言うフレーズはどこか違う気がする。

12,000 年前の後期旧石器時代以降を研究対象とする者にとって、これらの出来事は地球環境のサイクルの一瞬でしかない。

ただし、高度な文明社会が構築された現代、適切な処置を怠れば地球からの「お・も・て・な・し」が無くなる時期がくるかもしれない。(MH)

イベント情報

- ◆平成 25 年度秋季企画展
「**やおの古墳時代—邪馬台国時代のムラとくらし—**」
期間:平成 25 年 10 月 2 日(水)~平成 26 年 2 月 21 日(金)
時間:午前 9 時~午後 5 時、入館無料
休館日:土、日、祝日、年末年始(12 月 28 日~1 月 5 日)
- ◆講演会
「**邪馬台国時代の土器様相と地域間交流について**」
講師:西村公助<(公財)八尾市文化財調査研究会技師>
日時:平成 26 年 1 月 26 日(日)午後 1 時 30 分~(先着 30 名)
場所:八尾市立埋蔵文化財調査センター



八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌
『八尾・よろず考古通信 第9号』

発行:2013年10月31日、八尾市立埋蔵文化財調査センター
(編集:公益財団法人八尾市文化財調査研究会)
〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目 58-2
TEL・FAX 072-994-4700

URL http://www.kawachi.zaq.ne.jp/zyao_maibun, E-mail: maibun_zyao@kawachi.zaq.ne.jp

